

(様式1) 学校評価

<評価:A B C>

那須烏山市立江川小学校

項目	重点目標	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の
学校運営	教育課程	カリキュラム・マネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・児童に地域の特色を理解させるため、校外に出掛けたり外部講師に指導を受けたりして学ぶ機会を積極的に取り入れた。 ・総合的な学習の時間のテーマを、「私たちがつくる持続可能な那須烏山市」とし、市の文化や自然、福祉、まちづくり等に関する探究課題や学習活動を設定し、実践している。 ・異学年での交流によって、下級生は上級生から学び、上級生は教えたり遊んだりするサイクルが生まれており、親切心などが育まれている。	A	・学習に生かせる地域素材や人材の更なる発掘に努めるとともに、活動内容の精選を図る。	・総合的な学習の時間を中心に本市の文化や自然等について学ぶことで児童に郷土愛を育むよい機会になっている。今後も地域人材を活用しながら充実した取組が継続できるとよい。 ・冬ならではの地域ならではの体験(ウインタースポーツ等)を導入できないか。郷土愛も醸成できる。 ・相互授業参観は、日々忙しい中で他の先生方の授業を見ることは大変かもしれないが、若い先生はもちろんのことベテランの先生にとってもよい刺激・発見につながると思われるので、無理のない範囲で実施してもらえればと思う。
	組織運営	適材適所 研修の充実 働き方改革	・学力向上推進リーダーと連携を図り、児童の実態に合った深い学びができる授業づくりを工夫した。 ・学力向上コーディネーター派遣事業を活用した学力調査の結果分析や授業研究により、授業改善に取り組めた。 ・児童の教育活動を全職員チーム江川で支えるという体制ができている。 ・勤務時間管理システムなどで、適正な勤務時間の意識化を図った。担当の学年や校務分掌により、在校時間が長くなっている。	B	・年度途中から取り入れた相互授業参観を、もっと気軽に行えるようにしたい。	・職員の勤務時間をはじめ、働きやすい環境の整備が必要と考える。 ・校庭が広く夏場の除草作業は特に大変だと思われるが、トラックの部分はきれいに整備されており、今のままで十分だと感じた。地域の方の力がもっと借りられるとよい。 ・PTAが協力して活動できたので、PTAの存在意義があった。
	環境整備	○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇安心・安全で潤いのある学校環境の整備・充実に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	・多くの保護者と児童が参加して、計画的にPTA親子緑の活動を進めることができた。また、親子ともに意欲的に取り組んでいる。 ・安全点検後、修繕の必要な箇所について、業者への依頼や職員での対応等、迅速に処理できた。	A	・安全点検では、直したり移動したりできるものは、その場で対応する。 ・費用の関係ですぐに修理できない場合も、できるだけ早めに安全管理に配慮し、対応していく。

地域連携	<p>○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。</p> <p>◇学校・家庭・地域が連携・協働し、信頼関係を深め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。</p>	<p>地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、教育活動が充実している。 ・地域人材や学校支援ボランティアの方がたくさん協力して下さるので、少し危険が伴う活動も安心して活動できた。 ・児童会行事「感謝の集い」の開催にあたり、計画段階から地域の方々に関わっていただき、児童の実態を知る機会を設けた。 ・幼小中高校一貫教育研究協議会の研究大会で、他校種の先生の意見を聞くことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちを育てるとともに地域の方々や学校支援ボランティアの方々のおかげで自分たちの活動が充実していることを児童に指導し、あいさつや礼儀正しい態度の指導を継続していく。 ・今年度の実践を振り返り、活動内容の精選を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との繋がりを生み出したので、地域行事に積極的に参加してほしい。 ・金管バンドや陸上競技等の活動を支える仕組みをPTAなどで考える機会を設けられたらと感じた。 ・地域の方々や家族以外の大人のひととの交流は、子どもにとって礼儀や社会を知る貴重な経験として大切だと考える。
------	--	--	---	---	--	--

知の教育	各教科等・学習指導	<p>○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。</p> <p>◇児童一人一人の実態を的確に把握し、個に応じた指導や教育的ニーズに応じた教育の充実に努める。</p>	主体的・対話的で深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を子どもたちと一緒に考えて授業をすることができた。 ・保護者への働きかけで、家庭学習に協力的な家庭が増えた。 ・自主学習ノートの掲示が、児童の意欲を高めた。 ・学習指導主任を中心に、教職員で共通理解を図りながら指導を行った。 ・「学習のきまり」を徹底したい。 ・家庭学習の習慣がついていない児童が見受けられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のきまり」を定期的に確認する。 ・保護者と協力し、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく家庭にも協力してもらい、一緒になって学習の習慣化を図っていくことは大切なことだと感じる。 ・家庭学習の習慣づけは、学校が立ち入らなければならないか。ボランティアが関わることはできないか。家庭教育の不足の部分を地域で補ってあげればよい。 ・学習の習慣は家庭に委ねられている部分も多く感じる。学習について、保護者も一緒に考える機会を増やせたらよいと思う。
	情報教育	<p>○一人一台の情報端末の有効活用に努める。</p> <p>◇各教科等でICT機器を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進するとともに、情報活用能力及び情報モラルの育成に努める。</p> <p>◇プログラミング教育の充実に努める。</p>	プログラミング教育 情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やタブレットPCを使用することで、動画や画像を見ながら学習を進めることができ、学習内容の理解が深まった。 ・個人だけでなく、グループでのタブレットPCの活用を積極的に取り入れることで、協働的な学びを進めることができた。 ・タブレットPCでの家庭学習に喜んで取り組んでいる。自分のペースで学習を進められるのがよい。 ・タブレットPCを、学習に関係のないところで使用している児童がいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことにタブレットPCを使用しているか共有し、活用場面について考えていく。 ・学習の中で、タブレットPCを日常的に使用できるよう、教職員が研修していく必要がある。 ・「まなびPC(タブレットPC)の使い方」を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の活用なども取り入れてはどうか。世の中や地域を勉強する機会になる。教科書以外の勉強も大切ではないか。 ・タブレットPCの効果的な活用について今後も研修を行い、理解を深めてほしい。 ・ゲームによる影響が心配である。視力の低下やゲームに集中して切り替えができない等の問題がある。家庭でのルール作りが必要ではないか。将来への影響も心配である。
	国際教育	<p>○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>◇各教科等において、日本及び他国の文化を理解し、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えを表現できるコミュニケーション能力の育成に努める。</p>	SDGs 異文化理解 英語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語科において、校外のALTとのオンライン交流会を実施し、ALTIに自分のことや日本について紹介をすることで、コミュニケーションを図ったり、文化の交流をしたりすることができた。 ・クラブ活動に「郷土芸能クラブ」を設置し、地域の方々に指導を受けながら活動した。また、クラブを前後期の二期制にしたり、感謝の集いのイベントに踊りを取り入れたりして、郷土芸能に触れる機会を増やした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・領域等、教育活動全体をとおして国際教育を推進するよう、意図的な学習展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都度指導されていると思うが、情報モラルに関することも踏まえながら、指導していただければと思う。 ・以前のようにALT常勤であれば、様々な活動に参加してもらい、児童が異文化に接することができるのではないか。 ・異国の文化を知りつつ、自分たちの文化のよさに気付けたらさらによいと思った。塙の天祭を学校・地域・子ども力で今年度実施できたのは、本当によかったと感じた。 ・英語教育をもっと多く取り入れてほしい。

心の教育	児童・生徒指導	<p>○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇児童の内面理解に努め、児童に寄り添った指導や規律を守る指導を徹底するとともに、互いのよさを認め合い、高め合う楽しく居がいのある学年・学級、学校づくりを推進する。</p>	いじめ不登校自己指導能力キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学級で、帰りの会等を利用して児童同士の良さを認め合う時間を設けた。 スクールカウンセラーによるQ-Uテスト結果の活用の校内研修を実施した。 問題を把握したときに、児童指導主任を中心としてチームで対応したり関係機関と連携したりしてよりよい方向に向かえよう努めた。 計画委員会を中心に挨拶運動を実施しているので、少しずつ挨拶ができる児童が増えてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートの活用方法、活用場面について共通理解を図る。 挨拶ができる児童は増えてきたが、個人差があるので、継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校などの問題を担任1人で抱え込むことなく、児童指導主任を中心としたチーム江川として、今後も対応していただいたい。 いじめ・不登校については、現状をよく把握して大きくなる前に対策を講じてほしい。 様々な特性をもった児童がいると思うが、そういった子を受け入れてあげられる雰囲気作りを、今後も進めて行ってもらえればと思う。 他の意見を聞き、理解を深める経験が自分を知る機会に繋がる。
	特別支援教育	<p>○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。</p> <p>◇児童一人一人の実態を的確に把握し、個に応じた指導や教育的ニーズに応じた教育を充実する。</p>	インクルーシブユニバーサルデザイン合理的配慮自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題にもある「視覚化」を意識し授業を組み立てることで、みんなが分かる授業を目指して取り組むことができた。 学習面で困難を抱える児童に対して、個に応じた指導を行えた。 コーディネーターを中心に個別の支援計画を立てることができ、必要に応じてケース会議も開いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動やグループでの活動について、きちんとめあてをもって実践していく必要がある。 	
命の教育	健康教育	<p>○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇健康や安全について、よい生活習慣の形成を図り、児童が安全な環境の中で生活できるよう、教育環境の整備や健康安全教育の充実に努める。</p>	保健教育保健管理	<ul style="list-style-type: none"> マラソン走大会の練習では、一生懸命に児童は走ってきた。 熱中症指数が高い日や雨の日など外遊びができないときは、学級の共遊の時間とし、みんなで遊ぶ楽しさを味わわせた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を生かして、体育の準備運動等の改善を図る。 体力テストの結果についても学力調査やQ-Uテストと同様に課題を洗い出し、全校体制での取組を考える。 縦割り班の活動(外遊び等)を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上を図るために、一生懸命に練習に取り組みめたのは素晴らしいと思う。教員も一緒に取り組めるとよいと思った。 児童のみならず、教職員の心の健康にも留意してほしい。児童への指導に影響が出る心配がある。職場の雰囲気作りに努めて欲しい。
	安全教育	<p>○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇安全に関する行事(交通安全教室・避難訓練等)を関係機関と連携して計画的に実施し、様々な場に応じて、安全な行動がとれる児童の育成に努める。</p>	危機管理生活・交通・災害安全	<ul style="list-style-type: none"> 多くの避難訓練が計画的に実施され、児童の安全意識が向上した。特に総合避難訓練は、児童だけでなく教職員にとっても多くの学びがあった。 訓練のときに指導されたことを文章にして配付し、共通理解を図った。 通学班集会等で交通安全への指導に努めた。スクールバス会議の結果を放送で児童に周知することにより、児童が行動を振り返ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に合わせた避難の仕方も指導する必要がある。 現職教育に通報や初期消火の仕方、救急救命法などを入れ、教職員が対応を学ぶ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な内容の避難訓練を実施していると思うが、児童1人1人が、自ら考え・判断して避難できるように意識付けできるようになるとさらによいと思った。 楽しい食事をすることで、食事の大切さも児童に指導できるとよいと思う。 食育を通じて命のありがたさと感謝する気持ちをもってもらいたい。
	食に関する指導	<p>○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇各教科等と関連を図った指導や、市栄養士による指導により、正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。</p>	給食管理アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> 給食センターへの校外学習や外部講師等による授業により、食への意識が高まった。 給食時の放送を活用し、食育に関する内容の放送を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との関連を図り、食に関する指導が実践できるようにする。 年間指導計画に、指導時期、内容等朱書し、次年度以降に引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生方はゆっくりと給食をとることができないことが多くあるかもしれないが、子どもたちと一緒に給食を食べられるとよいと感じた。